

全国納税貯蓄組合連合会優秀賞

五三四〇円の日

新潟大学附属長岡中学校

三年 金子 里穂

「海外の人は税金を払えることは幸せなことだと思っている」と母に聞きました。税金を払える収入があることはありがたいことだと言います。私はそれを聞いて驚きました。なぜなら、私がよく耳にするのは、どちらかというと「税金を払いたくない」という言葉だからです。何年前に消費税が10%になりましたが、その際もニュースの街頭インタビューで目にしたのは、消費税が増えることに対してマイナスな捉え方をする声ばかりだったように思います。私はときどき百円ショップに行きます。当たり前のように百十円を払っています。以前は百三円や百五円で良かったことを思うと、少しうらやましいと感じます。しかし私は知りました。税金は私たちの生活に、私が考えていた以上に密接に関わっていることを。

七月に学校で租税教室を受けました。そこでは、それまではぼんやりとしか知らなかった様々な税について学ぶことができました。そのとき、配布された冊子である新潟県租税教育推進協議会の「わたしたちの生活と税」を読むと、ある記述に驚きました。「公立学校の児童・生徒一人あたりの年

間教育費」という見出しで小中高生の教育費が示されており、中学生は一人あたり年間約一〇六七〇〇円もお金が使われているとありました。一日あたりの金額は、約五三四〇円になるそうです。中学生の私にとって、五三四〇円というのはとても大きな額です。それが毎日毎日、私一人のために使われているのです。とんでもないことです。もちろん私たち中学生が教育を受けるために使われていることは知っていました。しかし、実際に数字を知ると、それは私が思っていた以上に大きな金額でした。

税金で支払われる五三四〇円。誰かが働いて納めているからこそ、私は毎日教育を受けられているのです。思えば税というものは、相互に支え合う仕組みなのかもしれません。誰かが納める税金が、街を整備し、公共のシステムの動力となり、私たちの教育に役立っています。そしてまた別の誰かの税が、その人の生活を支える何かとなるのです。そう考えると税というものは、社会が成り立つ上で必要かつ、とても素敵な仕組みだと感じます。さて、私は学校で過ごす毎日になんか誰かの思いを背負っているのでしょうか。私は一日に五三四〇円分の価値のある学びができています。きつと、できていないと思います。

お金はとても大切なものです。それを集めた税金も、大切なものです。そんな税について学んで、私は、税金を使って学んでいるということ、誰かの思いや期待を背負って学んでいるということだと考えました。これから学校生活を送る上で、五三四〇円の日だということを忘れず、感謝の気持ちを持って毎日を大切に過ごしていきたいです。

新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

命を守るヒーロー

新潟大学附属長岡中学校

三年 相澤 美結

私が小学3年生だった頃、祖父が救急車で病院に運ばれた。雪がたくさん降っている夜中、心臓に持病がある祖父が苦しそうに声を出していたことを今でも鮮明に覚えている。

お盆に親戚が集まったときに、その時の話をするのがあった。祖母から救急車は一回出勤する毎に四万五千円くらい費用がかかること、そしてそれには税金が使われていることを教えてもらった。幸い、処置が早かったため、祖父は今も元気で過ごすことができています。私はこれまで税金というと、「支払わなければいけない面倒くさいもの」というイメージしかなかったが、祖母の話聞いて税金に対する見え方が少しずつ変わり始めた。どのようなことに税金が使われているのか調べてみたいと思うようになった。

私が住んでいる長岡市は、新潟県内有数の豪雪地域としても知られている。冬になると、二メートル以上の雪が積もる地域もある。この雪から、私たちの生活や安全を守るために、消雪パイプや除雪車等が整備されている。このような除雪のために、新潟県は税金を活用して、令和五年度は一三二・九億円の予算を組み対応にあたっていた。一人一人の力では、雪に対応することは難しい。でも、多くの人で協力し、税金と

いうシステムを使うことで私たちが暮らしやすくなっていると分かった。

私が生まれ育った長岡市寺泊地域は民間の調査で「一部過疎」とされていた。このことを母に伝えると、全国的に大きな市の中心部に人口が集中していることが問題となっていて、祖母が雪の降る夜中に病院へ連れていくことはたいへん難しかっただろう。人口が少ない地域でも、当たり前のように命を守るために、色々な仕組みが整っていること、それは税金が活用されていることが分かり、税金という仕組みによって祖父の命が繋がれたと考えるようになった。

地図帳で新潟県に関係のあるページをめくると、全国でも五番目に広い面積をもち、山間地や離島もある。広大な面積でも医療行為を必要としている人がたくさんいる。そこで、素早く病院へ運ぶために、新潟県ではドクターヘリが二機運営されている。ドクターヘリは、二〇二四年四月から六月までに四五一件の応需があり、多くの人の命を守ることに繋がっている。このドクターヘリにも私たちの税金が使われている。

今回、税金について調べてみて、税金は、目立たないけれど、私たちの生活を支える存在であると考えた。命を守り、たくさんの人を笑顔にする税金を今ではとてもかっこよく感じる。これからたくさんさんの笑顔の花が咲くように、私もしっかり勉強し、社会人になったら税金を納め、社会に貢献できる大人になりたい。それが多くの人の命を守ることに直結していることが分かったからだ。税金は大切な人の命を守るかっこいいヒーローだ。

新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

花粉症を通して気づいた税金との関わり

長岡市立東北中学校

三年 野本 真央

私は小学二年生の時に花粉症を発症し、三年生の時に深刻なほど症状が悪化しました。かかりつけ医で処方された薬を飲んでも鼻水が止まらないため学校にはティッシュを箱で持って行くほどで、目は酷い痒みで赤く腫れてしまい、濡らしたハンカチで目を冷やしながら授業を受ける毎日が続きました。また、咳が止まらず、咳喘息も発症しました。

そこで、あまりにも症状が酷く改善しないため、私は母と一緒に大きな病院へ行き、検査を受けました。そして、重度の花粉症であることが分かり、「舌下免疫療法」を勧められました。この治療法は、アレルゲンを含む治療薬を舌の下に投与するもので、数年間一日一回服用しないといけないものでした。毎日の服用は大変そうだなと思いましたが、少しでも症状を改善したいと思い、治療をすることにしました。

治療を続けた結果、症状は治療開始前からは考えられないほど良くなりました。どのくらい良くなったかを調べるための血液検査を受けた日、私は治療を始めてからもう五年も経っていることに気づきました。五年間ずっと治療を続けてい

るので、私は医療費に相当な額がかかっているのではないかと、母にそのことについて尋ねてみると、子どもは税金の補助のおかげで大人よりも少ない医療費で治療を受けることができるため、長い間続けなければならぬこの治療もここまで続けることができたのだと教えてもらいました。

そこで私は、その税金の補助について気になり詳しく調べてみることにしました。そして、「子ども医療費助成制度」のおかげで、子どもの医療費の自己負担額のうち一部、もしくは全額を、自治体が負担してくれていることを知りました。私はそれまで、税金には遠い印象を抱いていました。ですがこの時、私たちの生活を支えてくれている身近な存在へと変わりました。

税金への印象が変わり、私はそれまで気にしていなかったことに目が行くようになりました。普段歩いている道も、通っている学校も、税金がなければ成り立っていないことに気づき、同時にありがたいものだとは強く感じました。

私はまだ中学生で、払える税金は消費税くらいしかありません。ですが、自分が誰かの納めた税金によって、治療を助けてもらったように、大人になった時はしっかりと納税して、どこかで誰かを助けるための力になりたいと思っています。

新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

税金と命。そして、使い方。

長岡市立北中学校

三年 高橋 凜々愛

私の母は10年以上血液透析を受けている。腎臓が上手く機能しなくなるとさまざまな病気を発症し、最悪亡くなってしまう。血液透析とは、上手く機能しなくなった腎臓の代わりに食事をしたり水分を飲んだりすることで体内に蓄積した余分な水分や塩分、老廃物を取り除き、血液を浄化するという腎機能が低下してしまった人にとっては命を繋ぐために欠かせない治療だ。透析ができない状態が続くとわずか2週間ほどで亡くなってしまおうそう。しかし、昔は血液透析というのは480万円ほどの多額の費用がかかるため、お金が無く透析の治療を受けられなかった人は「亡くなるのを待つ」という選択しかできなかったと母から聞いた。今は透析治療に保険が適用され、年間数万円ほどで透析を受けられるようになった。母の命は顔も名前も知らない沢山の人からの税金により支えられ、血液透析を受けることができているおかげで命が繋がれているのだ。だから税金が無ければ、母は生きることが難しかったかもしれないし、私ももしかしたら今ここにはいなかったかもしれない。そんな私も税金により支えられた。私は生まれつき低身長だ。しかし、身長を伸ばすための注射である成長ホルモン注射を毎日打って身長が伸び、今

はもうすぐ145センチになる。何気なく毎日打っていたあの成長ホルモン注射も税金が無ければ年間約100万円という膨大なお金がかかるそう。母や自分のこと、私は身をもって税金の大切さを感じた。

だからこそ、私は一人一人が税金を身近に感じ、大切に使うべきだと思う。税について調べている中で、今は国の税金の使い方に対し「税金の無駄使いだ。」などと言う人がいるが、実際に無駄使いをしているのは私達だと知った。例えば、蚊に刺されてかゆい、海水浴に行き日焼けをした足がヒリヒリする、紙で指先を切ってしまった、薬がなくなった、などの軽傷や自分で解決できる小さな問題で救急車を呼ぶことだ。このような救急車の無駄利用は救急車の出動にかかっている税金を無駄使いすることになる。また、選挙のポスターなどの選挙にかかる費用には税金が使われていて、選挙に行かないことも税金の無駄使いに繋がる。このように税金は身近に使われ、それを知らぬ間に無駄にしている可能性がある。私はこのことを知り、このような税金の無駄使いをなくし税金による支えが本当に必要な人に税金を届けるため、一人一人が身近に税金を感じ大切に使わなければならぬと思った。

私の将来の夢は薬剤師だ。今は税金によりたくさん支えられているが、薬剤師になり大切な税金を使って命を繋いだり、沢山の人に幸せを届けたい。また、税金を何気なく払うのではなく、大切なものということを理解して払ったり、税金の無駄使いに繋がる行動をしないように心がけられる人になりたい。

長岡税務署長賞

税金とSDGs

長岡市立刈谷田中学校

三年 今井 実希

「増税」

私達はこの言葉を聞いて何を思い浮かぶでしょうか。私達が生きる社会は消費税や所得税など沢山の税金であふれています。だから、はじめ私は、物の値段がさらに高くなって生活しにくそうだなと不満をいっていました。しかし、「世界の幸福度ランキング」を調べると日本は百位中五十一位なのにに対し、消費税がなんと二十四パーセントで日本の二倍以上であるフィンランドは七年連続で一位を守り続けています。なぜ、消費税率がそれほど高いのに国民が満足して暮らすことができるのでしょうか。そこには、税金の使い方にある秘密があったからです。

一つ目の秘密は、社会保障、教育費として子供の育児を担う手厚い支援です。例えば、生まれてきた赤ちゃんの一年間に必要となる衣類やケア用品をぎっしりと詰め込んだ「ベイビーボックス」という国からの贈り物が給付されます。初めての育児をするときでも買うものに困ることなく子育てができるので、税金に対してのありがたさを感じられると思います。まだデザインにも工夫があり、ジェンダーバイアスを避けるため箱の色を全体的にカラフルにしているようです。

これは、世界全体で課題とする持続可能な開発目標（SDGs）の中にある「五・ジェンダー平等を実現しよう」という項目にもあり、様々なことを考慮して有効に税金が使われているいいなと思いました。

日本では保育料、小学校から大学までの学費は、少なくとも七百五十万円もかかってしまいます。しかし、フィンランドでは、それらの費用が全額負担されて利用できます。生まれてきた子供全員が税金の支えによって質の良い教育ができます。またこれも、SDGsの中にある「四・質の良い教育をみんなに」と「十・人や国の不平等をなくそう」という二つの目標達成にすごく近いと考えます。

最後の秘密は、高齢者の介護についてです。介護と言われている浮かぶのは、高齢者施設のように思いますが、フィンランドでは、自宅に手すりをつけたり、適切な補助用具を無料で借用できるといふものです。これも自治体が税金で支払いをするので生活の心配も少なく済みます。SDGsと照らし合わせても「三・全ての人に健康と福祉を」という目標にも繋がります。

このように、一生涯の手厚い支援は国民が納めた税金の成果といえます。またフィンランドのSDGs達成率が世界一位なのも税金が関係していると言えます。日本で少子高齢化や地球温暖化など多くの問題が飛び交う中で、まず私達は税金について、そして政治について関心を持ち、行動することが必要です。大人になるとより税金を納める機会が増えてくると思えます。税金を納める意味を知った上で社会に貢献したいです。

長岡税務署長賞

十円の行方

長岡市立秋葉中学校

三年 諏佐 希歩

私はよく百円ショップで買い物をする。その時にいつも気になってるのが百十円の十円の部分だ。いわゆる「消費税」というやつ。

正直、商品の値段よりも多くのお金を払わなければいけないのであまり良い印象は持っていなかった。この十円はいったいどこに行くのだろうと日々、疑問に思っていた。

ある日ネットを見ていると、とある記事を見つけた。それは消費税の使われ方について書かれたものだった。今の私にピッタリだと思い読んでみることにした。その記事には消費税は主に、年金・医療費・介護・少子化対策に使われると書いてあった。私は驚いた。なぜなら税金は「国に払っている」という感覚が大きかったのだ、それが医療や老人、子育て保障など生活に困っている人たちのために使われていると知ったからだ。具体的には、健康保険や国民健康保険を通じて、医療サービスの費用を一部負担する医療保険制度、高齢者や障害者に対して必要な介護サービスを提供する介護保険制度、育児休業給付金や保育所の運営費、子ども手当などが含

まれる育児支援など、様々な場面で消費税が使われていることが分かった。ここで私はこれらの支援が実際に国民にどのような役に立っているのかという疑問を持ち、この疑問を解決すべく母に聞いてみることにした。

「お母さん、私達が払っている消費税はどんな所で役に立っているの？」と聞く。

「そうねえ。あなたの妹が生まれてきたときに育児休暇をとって出産後の大変な時期に家でゆつくりと赤ちゃんのお世話をするのができたわ。お母さんが仕事を休んでも育児休業給付金をもらっていたから家計が大きく困ることもなかったわね。しばらくして、保育所に妹を通わせて今度は仕事をしながら妹の成長を見守ることができるようになったのよ。はじめは慣れない環境で心配だったけど、施設もきれいで先生たちも優しく安心してたわ。そのあと、妹も大きくなって小学校に入学したでしょ。その時にかかる学校用品の費用や今習っている習い事も児童手当を使って賄う事ができたから家計にとっても大きな助けになったわ。」と母は言った。なんと、私が払っていた十円は自分の家庭の支えにもなっていたのだ。

以上のことを通して消費税は子育てをする人や高齢者等の困っている人の役に立っていることが分かった。それに、気になっていた私の十円の行方は、様々な場面で人々の生活をサポートするために、すがたを変えて潜んでいたのだと知った。これからは買い物をするときに、この十円が誰かの助けになるのだと思い温かい気持ちで納税していきたい。

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 最優秀

税金は私たちを救ってくれる

長岡市立旭岡中学校

三年 高橋 優花

私は税金のことについてあまり知らなかったとき、なぜ国民は税をおさめなければいけないのだろうと書いていました。ですが税金のことについて知って自分の身近なところに税金が使われているということが分かりました。税金は医療、介護、福祉などに使われています。そして私たち中学生も教育費を税金が負担してくれています。もし税金がなかったら病院に行くにも学校に行くにも全額を自分ではらわなければいけなくなりそうです。そして救うべき命が救えなくなったり、学びたいのに学べない人が出てきたりすると思います。中学一年生の時に税金がなかったらどんな世界になるのかというビデオを見ました。もし日本に税金がなかったら道を通るにもお金がかかったり、簡単に救急車を呼べなくなったりしてしまいます。なので、税金は国民がしっかりとおさめるべきだと思いました。税金をはらいたくないと思っっている人がいるかもしれない。税金をきつと税金のことについて知ればはらいたくないと思うときがなくなると思います。

私の妹が一歳の時に脳のがんになってしまい、見つかった

時にはもうかなりしんこくな状態でした。そして手術や放射線、抗がん剤などの治療をしました。入院や治療はともにお金がかかるので親は大変だっただろうなと思っていました。ですが日本には小児慢性特定疾病医療費助成制度という小児慢性疾病のうち特定疾病についての医療費の一部又は全部を公費で負担する制度がありました。その制度のおかげでお金に困らずに治療をすることができたのでとてもありがたかったと言っていました。日本にもしこの制度がなかったら治療ができず、妹が長く生きる希望はなかったと思います。がんが見つかったから約七ヶ月で妹は亡くなってしまいました。がんが、たくさんさんの治療ができたおかげで少しでも長く妹と残り少ない人生をいっしょにすることができたので本当に良かったです。きっと妹も治療はともつらかったと思うけど生きることができて良かったと思っています。私たちの家族のように子どもが病気になるってしまったり、人が日本にはたくさんいると思います。なので少しでも救える確率があるのなら救うべきだと思えます。だから、お金を理由に世界で一つの大切な命がなくなるのは絶対にいけないと思います。日本は国民一人一人の命や生活を大切にしてくれているので私はこの日本という国に生まれてくることができ、本当に良かったです。

新潟県長岡地域振興局長賞

税金育ち

長岡市立東中学校

三年 塩入 蒼介

私は一昨年、学校から支給された国語のワークをなくした。家中を探しても、学校で探しても、一向に見つからなかった。あきらめて買うしかない。そう思い、通販サイトでワークを探した。すぐに見つかった。それはとても高かった。三千円だった。近くの書店で買う参考書は千円前後なのに、関わらず、その三倍近くの値段もしていることに私は度肝を抜かれた。結局、国語のワークは見つかり、そのときに初めて「教科書の無償化」のありがたみを知った。

では、いつから教科書の無償化が始まったのか。それは、一九六二年に「義務教育諸学校の教科用図書は無償措置に関する法律」が制定された翌年のことである。なぜ、この法律が一九六二年に制定されたのか気になり、調べた結果、高知県長浜地区での教科書無償化運動にたどりついた。

この運動は、長浜地区の地域の母親や学校の先生たちで、「長浜地区小中学校教科書をタダにする会」を結成し、署名運動や集会を通じて教科書の無償化を訴えるというものだった。教科書が無償化される以前は、保護者が教科書を購入

する必要があった。特に戦後の日本では経済的に困難であり、教科書の購入が大きな負担となっていた。一部の地域では教科書を貸与する制度があったが、これは全国的に統一されたものではなかった。また、教科書の購入費用を補助する制度も存在していたが、これも限られた地域での実施だった。長浜地区は限られた地域の一つではなかった。ちなみに、一九四五年に日本国憲法が制定され、第二十六条に「義務教育は、これを無償」と明記されていた。この会を結成した人たちは、購入する必要があるのに憲法では無償、という矛盾点を指摘したのだ。結果的に一九六二年に教科書無償化の法律が制定され、翌年から段階的に教科書が無償で配布されるようになり、一九七三年には完全に教科書無償化になった。

高知県の母親と先生たちの闘いによって、タダで教科書が配布されていることに、私は感動した。憲法の理念を実現するために彼ら彼女らは声を上げ、会結成の翌年に法律の改正までに至らせた行動力を私は見習わなければならないと思う。私は今まで教科書を適当に扱っていたのかもしれない。母親と先生たちの血と涙の結晶が教科書にこめられているのに適当に使っていた。私はとても反省している。「当たり前が当たり前でない」というのを考えるのは難しいことだが、教科書無償化という当たり前のことを私は守っていきたい。このようなことを考えているうちに税金の重要性を理解することができた。税金で育った人間であるから、税金で恩返ししたいと私は思う。

長岡市長賞

税に支えられている私の夢

新潟大学附属長岡中学校

三年 加藤 梨央奈

税の作文を書くという話題になった。「税と言えば？」という問いに、妹は「買い物」と答えた。父は「オヤジが免許返納出来る仕組みづくりに税金を投入してほしい」と言った。母は「雪国新潟の除雪作業に使われている」と話した。私は「というと学校で学習した政治関係のイメージが強かった。そこで身の回りの税について考えてみることにした。すると母が「遠征の時に補助を受けている。あれは税金じゃない？」と話してくれた。

私は週5回プールへ通い飛び込み競技を小2から続けている。毎日施設を利用させてもらっている。また年に数回大会で他県へ赴き遠征も連れていってもらっている。両親が支払ってくれている金額ではまかないきれない経験をさせてもらっている。でもどこから？と気になったので私のコーチに聞いてみた。すると新潟県からは、新潟ジュニア育成事業、国スポ強化事業、オリンピックピクアスリート夢チャレンジの補助、長岡市からは指定種目強化事業助成金をいただいている。遠征時の宿泊代、プール使用料、移動費。税金は道路や施設を新しくするためだけに費やされているだけでなく、私の

日々の生活も税金で支えられている事を知った。

そして今年は二〇二四年パリオリンピック開催の年！

インターネットで「税・スポーツ」と入力するとスポーツに税金を使うのはムダ使いだという批判的意見もある。けど選手の頑張りや涙、すべてが世界中の人の心をあつくしているスポーツに税金もつかわれているって国民としてほこらしく思った。

私は当初、「日本人はこんなにメダルが取れるの？」と思っていた。が、そう簡単な事じゃない。選手の努力や周りのサポートはもちろんのこと。住んでいる市、町、村、県、そして日本中の人々の税金が選手の活動費となり支えられて、こういった素晴らしい成績に結びついているんだということに気づいた。みんな応援して、喜んで、とても幸せな使い道なのではないか。オリンピックピクの見方がガラッと変わった。自分一人の努力じゃないんだ。

今回、税金に対して考える機会を与えられなければ自分には直接関係ないなと思いつづけていただろう。税金とは大人になったら納めるだけで、使い道を知ることにはなかっただろう。私は今税金のおかげで練習できていると言っても過言ではない。

今の私にしかできない事を一瞬一瞬大切に積み重ねていきたいと思っている。このありがたい恩恵を受けるためには与えられた時間の中で練習を続け、着実に結果におすびつけて自分だけではなく、長岡市の発展のためにも頑張りたい。

出雲崎町長賞

私たちの身近な税金

出雲崎町立出雲崎中学校

三年 小林 愛瑠

私は小さいとき、税金が嫌いでした。ただ私たちからお金をとって、全てがえらい人のお金になると思っていたからです。

でも少しずつ大きくなるにつれて、税金は私たちが生活しやすいようにするために使われていることや、病院などに行ったとき負担されていることなど、いいことに使われていると知って嫌いではなくなりました。

今でも税金のことはほんの一部しか知りませんが、学校の授業で税理士さんから学んだこともたくさんありました。

一番心に残ったことは、他の国にも税金があることです。今まで考えたことがなかったけど、他の国も言葉が違うだけで、日本と同じだから税金があることはあたり前のようだけども他にも一〇〇カ国以上の国に税金があることを知って驚きました。国によって税金の値段が違っても学びました。

もう一つ驚いたことは税金の種類が五〇種類もあることです。私は消費税や所得税などしか知らなかったし、他に種類があったとしても三から五種類程度しかないだろうと思

っていたので、思っていたより十倍多くて、税金はそんなにたくさんの方で、いろいろなところから集められていると知って、種類に興味を持ちました。

調べてみると、「税金」の中にも大きく分けて直接税と間接税の二つがあり、五〇種類のうち二五種類は国、十二種類は県、十三種類は市町村、と納めるところもそれぞれ違うことが分かりました。

国に納める直接税にはよく知っている、所得税、間接税には消費税がありました。また間接税には、日本酒やビールといった酒類にかかる酒税、たばこにかかるたばこ税、たばこ特別税などもありました。お店で買うとき消費税に入っていると思っていたけど、それだけの税があることも学びました。たばこ税は県や市町村に納める税にも、県たばこ税、市町村たばこ税がありました。

目にとまったのは県の間接税のゴルフ場の利用にかかるゴルフ場利用税や市町村の間接税の入湯税、宿泊税です。こんな税金もあるんだ！と驚きましたが、こうしてみると少しおもしろいと感じました。

宿泊税は、金沢市が独自に課す法定外税らしく、金沢市内の宿泊施設に宿泊する人にかかるそうです。ある特定の地域だけの税があることも初めて知りました。

正直、税金はよく分からなくて面倒くさいと思っていましたが、調べてみたら種類もたくさんあって、興味をもちました。私も大人になったら、しっかり税金を納めようと思いました。

長岡地区租税教育推進協議会 会長賞 優秀

暮らしの中で生きる税金

長岡市立堤岡中学校

三年 高橋 咲希

私の祖父母の家はすぐく田舎で、旧小学校区には信号機はないし小学校も昨年廃校になってしまった。今までグラウンドから昼休みになると小学生の笑い声が聞こえていたが今では子どもの声もしなくなり静かな過疎地になってしまった。一番近いスーパーでも車で20分はかかってしまう。まさに少子高齢化で日中は後期高齢者しか道路を歩いていない。それでも、道路はきれいに舗装され川もきちんと整備されている。日本中どこにいても安全で安心した生活ができていいる。税金で整備してくれているおかげだとつくづく感じる。祖父母の家の裏には川が流れる。川沿いには祖父母の家の他には家はない。しかし、いつの間にか河川工事が行われていて沿岸はコンクリートで補強されていた。都会か田舎、人口の多さではなく日本中どこにいてもそれぞれの人が等しく公共事業の恩恵を受け日常生活を送ることが出来ている。それは本当にすごいことだと思う。

また、雪国新潟県で特に税金のありがたさを痛感するのは除雪対策だ。祖父母の家は毎年何メートルも雪が積もる。雪

に慣れているとはいえ、歳を取った祖父が家の前の雪を除雪するだけでもひと仕事だ。それを毎朝除雪車が来てくれて生活用の道路全てをきれいにしてくれ、また積もるとすぐに除雪車が出動してくれる。そこには必ず来てくれるという安心感がある。しかし、ドカ雪が降ってしまうと日常生活が麻痺してしまう。そうならないようにどこの道も夜明け前から除雪を進めてくれ、私達が活動し始める頃には何事もなかったかのように道がきれいになっている。

私の父はトラックドライバーで、2年前の国道8号の大雪による立ち往生の時は丸一日トラックの中に閉じ込められた。寒さと空腹、燃料の減りを感じる度に絶望的な気持ちになったそうだ。そんな時自衛隊が除雪にきてくれ、市から救援物資としてクッキーと簡易トイレを受け取りこれで帰れると希望が持てたと父は話していた。いざとなった時だからこそ本当にありがたさを感じ、希望を与えてくれるのが暮らしの中で生きる税金なんだなと感じた。

税金は、生活をより良くするための一つ。ただ単にお金を払わなくてはいけないものと考えずに、そのお金がどこにどんなふうに使われているかどんな役割を果たしているのか考えなくてはいけない。特に災害時には、私達に希望と安心感をもたらす。今自分は困っていないからではなく、いつか誰かのために使われると考えればより良い社会が作れると思う。あたり前のことは何一つなく、「あたり前の日常」になるように税が活かされている。私達は、暮らしの中で生きる税金を正しく理解して使うことが大切だ。

公益社団法人長岡法人会賞

私が住む日本

長岡市立関原中学校

三年 藤島 結愛

私には日本から約八〇〇〇キロも離れたカナダに住むいところがない、今年で四歳になります。まだ幼いので、怪我や事故に遭わないか心配です。日本では怪我で病院を受診した際、医療費の約七割を税金が負担してくれ、小学校入学前なら八割を負担してくれます。また、子供は病院で処方されるお薬が無料であったりなど、とても安心です。医療に関してだけでも日本は税金により様々な負担が軽減されている印象を受けます。けれど、カナダではどうなのでしょう。カナダの隣の国のアメリカでは救急車を呼ぶのにお金がかかったり、医療費が高いと聞きます。心配になりいところのお母さんにメールで聞いてみました。その情報によると、なんとカナダではすべての患者の医療費が税金のおかげで無料であること分り安心しました。他にもカナダの税金についてたくさんのお話を教えてもらいとても勉強になったのと同時に、日本とこんなにも違うのかと驚き、日本とカナダの税金の違いを調べてみました。

調べたことの一つ目は、カナダの税金は何パーセントなのかということ。カナダでは、州・売上税といい、州によって額が一〇パーセントのところもあれば〇パーセントの

ところもあり、それにプラスして連邦消費税というカナダ全土一律にかかる税金や、この二つを一体化し統一売上税としたものがあることが分かりました。最大で一五パーセントの税金がかかる州があり、住む場所によって大きく異なることに驚きました。

二つ目は、医療費以外にも税率が〇パーセントのものがあるのかということ。いところのお母さんから教えてもらったのは医療費だけでしたが、調べていくとパンや牛乳、野菜や穀物も〇パーセントであり、さらに中古住宅や教育サービス、金融サービスやヘルスケアサービスは非課税であることが分かりました。他にもいろんな違いが分かり、思ったことがあり。カナダの税金は医療費や食料などが税率〇パーセントなので、形を変えて国民に戻ってきていると感じました。それに対し日本では、道路や街並みなどの公共スペースや施設に税金が充てられ、私達の生活する環境という形になっていると感じます。

調べる中で、生活必需品に税がかからないカナダの方が日本より良いのではないかと思っていました。しかし、私達が当たり前のように歩いている道路や、安全に使える水道水、綺麗なトイレはすべて日本の税金の使われ方のおかげなのだ実感しました。

私は、税金について詳しく調べたことで税金にはどんな役割があるのかを深く理解することができ、自分の身近なところで税金が使われていたことを知ることができました。まだ働くことができないので消費税を納めることができないけれど、将来、ちゃんと社会に貢献することができるよう、今の自分にできることをしていきたいです。

関東信越税理士会会長岡支部長賞

「今年の漢字」に選ばれた理由

長岡市立山古志中学校

三年 小川 大翔

二〇二三年の「今年の漢字」は、「税」という漢字でした。「今年の漢字」は、毎年、京都の清水寺で発表され、その漢字は「日本漢字能力検定協会」がその年の世相を表す漢字一文字を一般から募集し、最も多かった漢字が選ばれます。なぜ、この「税」という漢字が選ばれたのかを考えてみました。「税」という漢字は二〇一四年にも「今年の漢字」に選ばれていて、二度目でした。二〇一四年に「税」という漢字が選ばれた理由は、消費税が引き上げられたからでした。去年、二位に選ばれた「暑」は、地球温暖化などによる夏の平均気温が統計開始以来最高であったからでした。

去年は、「税」に関するさまざまな改正や検討が主に三つ行われていました。

一つ目は、一年を通じて増税の議論が行われたことです。防衛力強化のために必要な財源を賄うため、法人税、所得税、たばこ税の三つの「税」に関する議論が行われました。私たちも、議論が行われる中、増税がされるのではないかと不安を感じました。

二つ目は、所得税、住民税の定額減税が話題にのぼったことです。過去二年間の税収増の還元として、首相から、所得税と住民税の定額減税が実施されました。合わせて行われる低所得者世帯への支援や所得制限の有無など、人々の関心を寄せました。

三つ目は、インボイス制度の導入やふるさと納税などの、多岐にわたる「税」にまつわる話題があったことです。インボイス制度や、ふるさと納税のルールの厳格化、酒税改正、新NISAなどの改正が行われました。

このように、たくさんの検討や議論があり、「今年の漢字」に選ばれました。私の趣味がテレビでニュースを見ることで、毎日かかさず見えています。ニュースの中でもたくさん「税」についての話題が取り上げられていて、何度も、議論している様子を目にしました。税金は、私たちが暮らす中で大切なものです。私たちの身近なものだと、小・中学校の授業料や施設の維持をすることなどが無料です。これも、税金がないと無料ではありません。私は、税金があることを意識しながら生活できていません。だから、税金のありがたさや、「税」への関心を深めながら生活を送って行きたいです。

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 優秀

私たちの生活を支えている税金

長岡市立岡南中学校

三年 星野 遥

私は今まで、税金が社会のために使われていることは知っていましたが、何に使われているかについてはよく知りませんでした。この作文を書くにあたって税金のことをよく理解しようと思い、詳しく調べてみることにしました。

税金とは、国や都道府県、市町村が人々から集めているお金のことです。学校や道路の整備、医療や福祉、年金などの社会保障制度にも税金が使われています。そして、国や地方自治体の歳入が確保されることによって、財政赤字を解消し、国債など借金が増えないように防ぐことができます。もし税金がないと、公共サービスを受けるのにお金がかかり困ることがたくさんあります。例えば、医療費がすべて自己負担になったり、ごみ収集が有料になったりするなどがあります。

私は日本の税の歴史について興味をわき、調べてみました。日本の税の歴史の最初は卑弥呼が支配する邪馬台国の時代にあるとされています。正式に税金の制度が取り入れられたのは飛鳥時代からだと言われています。租・調・庸という三種の税がありました。明治時代になると、農作物や特産品で

はなく金銭で納税することが一般的になりました。また、「法人税」や「所得税」が取り入れられた時代も明治時代です。時代が移り変わっていくうちに、少しずつ今の税金の制度に近いシステムが整えられてきました。江戸時代には、「年貢」と呼ばれる税金の制度が始まりました。戦後になると、日本国憲法が定められ、自分で稼いだ金額とそれにかかる税金を計算して税金を納める「納税申告制度」も取り入れられました。平成元年には、三パーセントの税率で「消費税」が取り入れられ、その後、段階的に引き上げられ、現在は八パーセントあるいは十パーセントになりました。このように、経済社会の変化にもなつて税の制度は変わってきました。

税金は私たちの生活を支えるための大切な資金です。毎日の買い物やサービスを受けるときに何気なく支払っている消費税も医療や福祉などに使われています。私は、税金について調べたことで、税金は快適で豊かな生活を送る上で必要不可欠なもので、税金を納めることの重要性を学びました。今、私たち中学生は消費税が一番身近で自分でも支払っている税であると思いますが、私たちが大人になって働くようになったら、消費税だけではなく、住民税や所得税なども支払うことになることがわかりました。私は今回の調査を通じて、税金が社会に果たしている役割やその歴史について、深く理解することができました。税金を納める一人の人間として、税についてしっかりと調べ、学ぶことが大切だと感じました。

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 優秀

税にとっての敵

長岡市立宮内中学校

三年 伊藤 杏

「負担」この言葉は税にとって敵なのではないか。少なくとも私はそう思う。私がこの作文を書くまでに見てきた税に関する教育動画には、大体、最初に主人公が税に対して、「自分の生活に負担になっていないか。」という考えを持っていった。そのため、私は、一般的にもそれらの主人公のように税を捉えている人が多いのではないかと思った。皆さんはどうだろうか。

果たして人々は何をもって税を負担だと考えるのか。世の中の人々の意見を調べてみた。その結果、「なぜ自分で稼いだお金を国に負担しないといけないのか。」や「負担額が大きい。」などの意見が多くあった。私は、これを税に対する関心が少ないからではないかと思う。

では、そんな嫌われている税がなくなったらどうなるかという視点で考えてみよう。私たちが生活する中で、多くのところで税は使用されている。学生である私たちからすれば、教科書などの教材費が税によって補われ、学ぶことができている。子供だけでなく、大人もだ。税によって警察や消防、

救急車などの利用ができていく。そのため、税がなくなるとこれらの利用ができなくなり、大変不便である。そう思うと本当に税は「負担」なのだろうか。私たちが今、安心、安全に生活できているのは税のおかげなのではないか。よくよく考えれば当たり前だが、だからこそ忘れやすく、世の中の人々の税に対するイメージが悪くなっているのではないだろうか。

更に、税を負担と考えるしまう要因がある。それは、社会問題に税が関連してしまうからだ。特に問題視されているのは、少子高齢化とのつながりだ。将来、高齢者の数が増えることで、これからの若者たちの税が増えるという問題があるということを書きながら、実際に調べて知った。実際、そのような課題があることを今まで知らなかった。私のように知らない人もいるのではないだろうか。正直、その問題を知ったとき「嫌だな。」と思った。きっと私以外の若者もそう思うだろう。そうなると、これから日本を作っていく若者の税への関心が薄れてしまう。そうならないためにも、若い世代の人たちも今から協力し、どうしたら解決するのか考え、未来に繋いでいくことが大切だと思う。

「負担」という言葉は、私たちの暮らしを保ってくれている税の敵である。その敵に勝つために、より沢山の人が税に関心を持ち、更に良くしていくことが、これからの社会に必要なのではないだろうか。